

令和4年度事業計画

学校法人武蔵野大学

1. はじめに

現在、本法人を取り巻く環境は、グローバル化や少子高齢化・情報化の進展によりますますスピード化が進んでいる。また、2020年初旬に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、都市圏における度重なる緊急事態宣言の発令などにより、経済や私達の生活に甚大な影響を与えており、未だ新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見えない状況下において、将来の予測が更に困難なものとなっている。

こうした中、本法人はどのような状況下であっても、建学の精神「仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育」を基本理念に置き、本法人のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を具現化する人財育成に向けての歩みを進める。

来るべき2024年の創立100周年を見据えつつ、時代の要請に機動的に対応して教育研究の質を更に向上させ、教育研究活動を将来にわたり継続的に実施し、地域や社会に貢献しながら本法人の社会的使命を果たしていくことが求められる。

本法人は、2020年度に「第一次長期計画 -MU VISION 2030- [2020年度～2030年度]」及び「第一期中期計画 [2020～2024]」（以下「中長期計画」という。）を策定した。令和4年度事業計画は中長期計画の目標達成を視野に入れて、令和4年度に取り組む内容をまとめたものである。

2. 各学校及び法人の事業方針

武蔵野大学・大学院	2050 Vision「5つのチャレンジ」 <ul style="list-style-type: none">・「武蔵野大学SDGs白書」の発表を見据えた年次報告書発行の着手・Happiness Creatorを育成するための響学スパイラル（武蔵野メソッド）の確立・教員評価制度のプレ導入と、教員が研究に専念しやすい環境の整備による研究力の向上・メディアを活用した環境の拡充とメディア化対応科目の導入・AI活用エキスパートコースの本格始動・グローバルPBLの構築・創立100周年へ向けた卒業生との連携強化
武蔵野大学高等学校・中学校	<ul style="list-style-type: none">・多様な進路の実現に向けての長期休暇中の補習・講習等の再構築・均一で質の高い授業等のあり方の検討・外部コンテンツの効率的かつ効果的な活用・民間企業と連携した教育プログラム等の継続

武蔵野大学附属千代田高等学院・千代田国際中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力と協働性の向上 ・国際性豊かなマインドのコース横断的な展開 ・老朽化の著しい校舎の建て替えの検討 ・再開する中学校をはじめとする教育環境・インフラ整備の充実
武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び地域の方々の信頼度、満足度の向上と、子育て応援講座の拡充 ・課外活動授業（体操・書道）等の取組の拡充 ・経年劣化が進む園舎内部の改装や園庭遊具の更新整備等
武蔵野大学附属有明こども園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援プログラムなど競争力のある教育の実施 ・2022年度までに定員充足率100%を目指す
法人	<ul style="list-style-type: none"> ・「MU VISION 2030」の達成 ・建学の精神の普及に資する式典、行事等の充実 ・事務職員新人事制度導入後の各制度のフォロー ・武蔵野高中及び千代田高中教員の処遇統合 ・ブランディング広報の強化 ・ホームページのリニューアルを含めた法人全体の広報戦略の策定と実行 ・創立100周年記念事業各プロジェクト等の着実な遂行 ・MUSIC構想を支えるネットワークインフラの更新

(1)各学校の取組

①武蔵野大学・大学院

2019年に策定した武蔵野大学 2050 Vision 「5つのチャレンジ」に対して、次のとおり取り組んでいく。

・「チャレンジ1 自己と世界を問う」

SDGs17目標の達成に向けて2024年度に予定する「武蔵野大学 SDGs 白書」の発表を見据えた年次報告書発行に着手する。また、教育研究の質を高め、Happiness Creatorを育成するため、響学スパイラル（武蔵野メソッド）の確立を図る。

・「チャレンジ2 未来の世界を創る creative な実践者の輩出」

これらの人財を育成していくための教員像を定めつつ、教員評価制度をプレ導入するとともに、大学独自の研究力を確立させるための具体的なプランと GOAL を明確にした上で、教員が研究に専念しやすい環境の整備（研究時間の確保・インフラ整備・事務サポート体制の充実等）を行い、研究力の向上を図る。

・「チャレンジ3 AI世界を先導するMUSIC」

スマートキャンパス化に向けて、メディアを活用した環境の拡充とメディア化対応科目の導入を推進する。また、副専攻として2021年度後期から一部科目がスタートするAI活用エキスパートコースを本格始動させるなど下地を固める。

・「チャレンジ4 Global&Universal」

グローバルPBLを構築し、世界に羽ばたく人財の育成を図る。

・「チャレンジ5 MU-GENIにつながるInfinite Linking」

創立100周年に向けた武蔵野サングの醸成として新たなホームカミングデーを企画し、卒業生との連携を強化する。

②武蔵野大学高等学校・中学校

国公立大学・難関私立や海外大学等、男女共学化一期生が目標とする多様な進路を実現するため、長期休暇中の補習・講習等の再構築や均一で質の高い授業等のあり方の検討、外部コンテンツの効率的かつ効果的な活用を検討する。

また、従前から取り組んでいる民間企業と連携した教育プログラム等を継続し、活動から得た知見やスキルを総合型選抜・学校推薦型選抜での受験にも活かすことができるよう、生徒へのサポートを実施する。

③武蔵野大学附属千代田高等学院・千代田国際中学校

教員の授業力と協働性の向上のために、授業研究を進める。客観的なフィードバックを得る研修や学びの質を高める教材の選定を行い、教育スキルを高め、国際性豊かなマインドのコース横断的な展開を目指す。さらに、老朽化の著しい校舎の建て替えについては、「学院キャンパス施設等検討委員会」において策定予定の法人全体の施設設備計画を踏まえて検討を行う。併せて、再開する中学校をはじめとする教育環境・インフラ整備の充実を図る。また、法人合併後も実態として統合されていない業務内容については、本来の分掌へと修正を図っていく。

④武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園

幼稚園に対する保護者及び地域の方々の信頼度、満足度を向上させ、入園児の増加につなげるために、保護者及び地域の方々に対しての子育て応援講座や在園児に対する課外活動授業（体操・書道）等の取組を拡充することに加え、経年劣化が進む園舎内部の改装や園庭遊具の更新整備等を行うことで施設の充実も図る。また、保育園は引き続き定員を充足させるとともに、園児の成長につながるきめ細やかな保育を企画・実施する。

⑤武蔵野大学附属有明こども園

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、子ども・子育て支援法及びその他の関連法令に従って、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、就学前の子どもに対する教育及び保育を一体的に行う。そのために、園内外で研修を実施し円滑な運営に努め、教育環境の整備を行う。また、わくわくプログラムや地域子育て支援プログラムなど競争力のある教育、保育を行うことで園児を成長させると同時に 2022 年度までに定員充足率 100%を目指す。

(2) 法人の取組

本法人の絶えざる改革と成長、発展を目指し策定した「MU VISION 2030」の達成に向けて、次のことに重点的に取り組んでいく。

- ・建学の精神の普及に資する式典、行事等を引き続き充実させていく。
- ・ガバナンス構築及びコンプライアンス遵守に組織的に対応すべく、規程やシステムの整備を行う。
- ・2022 年 4 月に予定している事務職員新人事制度導入後の各制度のフォローを行うとともに、2023 年 4 月を目標とする武蔵野高中及び千代田高中教員の処遇統合のため必要な対応を進める。
- ・第一期中期計画(重点計画)のアクションプランに掲げる「ブランディング広報の強化」を第一義とし、認知度及びブランド力の向上はもとより、法人内における各所管での広報意識の醸成と体制を整備する。
- ・ホームページへの動線等の更改要望も多いため、ホームページのリニューアルも含めた、法人全体の広報戦略を策定し、実行することにより選ばれる大学、学校を目指す。
- ・2024 年度に予定している創立 100 周年記念事業の各プロジェクト等を着実に遂行する。
- ・財政の安定化に向けたバランスのとれた予算の構築と執行、新たな収入源の確保及び積極的な募財活動により、財政基盤の強化に努める。
- ・安心安全を見据えた災害対応力を強化し、危機管理能力を向上させるため、新型コロナウイルス感染状況を踏まえつつ、危機管理体制の確保に係る各指標達成に向けて計画通り実施する。
- ・過去に積み立てた施設設備整備引当特定資産を活用し、MUSIC 構想を支えるネットワークインフラの更新や PC 教室の更新を行う。

3. 各学校及び法人の事業計画

[武蔵野大学・大学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
チャレンジ1	自己と世界を問う	SDGsの17目標に向けての全学的な取組の推進	SDGsの17目標に向けての全学的な取組を通じた建学の精神の具現化			4～8月 資料収集 9月 制作開始 3月 発行
			学科・研究科・研究所の17目標における教育研究課題の設定と解決に向けての取組	○	武蔵野大学SDGs白書	SDGs実行目標2021の検証、2023以降の計画修正
			国内外の研究機関との連携深化と国際的な交流活動の拡大		国際的シンポジウムの参加研究者数	第7回しあわせ研究所シンポジウムを開催検討
				幸せ、SDGsに関する共同研究数	4月上旬 研究費募集開始 5月下旬 査定・研究費配布	
		「世界は幸せか」という問いから始まる学修の仕組み構築	○	Happiness Creator目標の設定(授業レベルの教育改善)	・新カリキュラム(2年次=プレゼミ等)の検証、調整 ・SDGsテキスト出版企画(執筆、編集) ・新カリキュラムの検証を踏まえてのHappiness Creatorの目標調整	
		Happiness Creatorを育成するための武蔵野メソッド(響学スパイラル)の開発	○	響学スパイラル取組授業数	・高等教育センター(仮称)の開設 ・響学スパイラルを活用した授業改善に対する取り組みに対するインセンティブの設定(授業改善小委員会)	
		全学部学科・研究科におけるFDの徹底を通じたアクティブラーニング、反転授業、ICT活用等による授業改善		学科・研究科FD実施率	・響学スパイラル等に関する学科FDを実施	
				アクティブラーニング等に関する目的別FD開催件数	・アクティブラーニング等に関する学内外の先駆的な実践者、研究者を講師とした目的別FDの企画・開催	
		自己の生き方を問いつつHappiness Creatorとして歩む志、能力の確立		1科目当たりの予復習時間	・アセスメント結果の検証 ・各アンケート調査での検証 ・ブランドビジョン協議会での検証	
			生涯学び続ける学習基盤の確立	予復習時間6時間以上の学生割合	・アセスメント結果の検証 ・各アンケート調査での検証 ・ブランドビジョン協議会での検証	
				授業理解度	・アセスメント結果の検証 ・各アンケート調査での検証 ・ブランドビジョン協議会での検証	
				授業主体的取組	・アセスメント結果の検証 ・各アンケート調査での検証 ・ブランドビジョン協議会での検証	
		入学前・初年次教育による武蔵野の学びへのスムーズな移行		退学率	・学則変更(円滑な高大接続に資する初年次学科科目の新設)	

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画		
チャレンジ2	未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	学修者本位のカリキュラムの構築と教育力の向上	共通基礎課程必修単位数を低減し、学びの目的に応じた選択科目を配置		2021年度未来共創プログラムの完成(学科(カリキュラム)レベルの教育改善)	通年 2021年度未来共創プログラム(INITIAL科目)の2年目実施 通年 学びの目的に応じた選択科目の検討		
					(2021入学者のDP2)	通年 関連要素の共有、必要に応じた学科でのルーブリックの見直し		
			【認証評価指摘事項】各学部学科、研究科の学修者本位のCPへの見直し	○	改善策の実施	必要に応じ DPの見直しに応じたCPの見直し 通年 CPに盛り込む内容のガイドライン作成		
			メインメジャーとサブメジャーとの融合的カリキュラムに合わせた学内組織の改編	○	サブメジャーの開講コース数	通年 2コース検討		
			教育研究の質を高めるための教員評価の導入とSD研修の充実	○	教員評価プログラム	4～7月 教員評価制度の具体的設計 8月 評価試行 通年 研究向上委員会とのすり合わせ		
			ST比率の戦略的な学科別見直しによる改善		大学ST比率	各学科の特性に合わせた本学独自のST比改善の方策を策定し、立案する。		
		未来の世界を担うcreativeな知をカタチにできる人材の輩出	未来の世界を担うcreativeな実践者の輩出	未来の世界を担うcreativeな知をカタチにできる人材の輩出	自己の関心事や専門分野と社会とのつながりを体感する学外学修の推進	○	学科教員企画FSプログラム数	夏、春：【AP】発展FSの開講 通年：学科での取り組み促進
					学修成果をカタチにする手法(ライティング、プレゼン等)を支援するセンターの設置(上位層引き上げ・補習体制整備)	○	DP3、4	通年：アウトプット展示の恒常的スペースの確保 8月：学生利用を前提としたアウトプットツール(少なくとも大判プリンター)の学内設置 通年：【AP】・学外発信力の強化(発展FSの学外発信を含む) オンライン発信の仕組み検討
					アントレプレナーシップ学部の設置と起業家の輩出		起業数	キャリアセンターとの連携による全学起業支援始動
					目的やニーズに応じ、個々人の環境や特性を活かした学び方を可能とする多様な学修プロセスの構築	○	学科のDP到達を示す成果物	通年：【AP】「キャリアデザインC」開講、学外のビジネスプランコンテストへの参加促進 ～8月：電子ポートフォリオの検討(学科での推進方法も含め)必要に応じて予算化
					官民幅広い分野での人材輩出		公務員上級職	通年：全学的支援スキーム検討に向けた現状調査 通年：学部横断情報提供 10～11月 業務説明会の開催
					教職員一体となったキャリア形成・就職支援(アドバイザー教員の主体的指導の支援体制拡充)	○	著名企業就職	通年：キャリアセンターによるキャリア支援の早期化促進(企業に評価される経験と人間的成長、職業観涵養)
							キャリアセンター	4～9月：PBL型インターンシップ「企業協働プロジェクト」始動 通年：「キャリアデザインB」を活用した2年次公募型インターンシップへの参加促進

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
チャレンジ2	未来の世界を創るcreativeな実践者の輩出	社会の変化を包摂する専門的知見に基づく解を提示する研究力の向上	社会の要請に応え、高度化する専門知に対応する大学院研究科の設置		大学院研究科の設置の検討案を提案する。	研究科の設置について、関係部署と情報共有と意見交換に努め、設置案について共に検討する体制を構築する。
			【認証評価指摘事項】大学院研究科の研究指導体制の再確認(DP・CP・論文審査等基準の見直し、FDの推進)	○	改善策の実施	6月：教育改革推進会議にて今年度の充足状況報告 11月：教育改革推進会議にて次年度の充足見込報告
			外部資金による研究費の獲得	○	科研費件数総額	・専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る要望書の立案 ・学科事務要員の雇用に係る立案
					奨学寄附件数総額	・専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る要望書の立案 ・研究シーズ集の公開
					受託研究件数総額	・専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る要望書の立案 ・研究シーズ集の公開 ・学科事務要員の雇用に係る立案
			研究活動の支援と研究成果発表の促進		査読付き論文の実績のある教員の割合	・専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る要望書立案 ・査読付き欧文研究論文などの質の高いジャーナルへの掲載を目指す教員を支援する施策を立案 ・大学として有料版AI翻訳ソフトの契約及びWeb of Science等の導入について立案
					クロスアポイントメント件数	・専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る要望書の立案 ・卓越した研究者の招聘に向けた立案 ・現行の海外留学・国内留学制度を見直し、サバティカル研修制度の活用に向けた立案
			研究費予算の戦略的配分		共同研究・その他研究件数総額	・専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る要望書の立案 ・研究シーズ集の公開 ・学科事務要員の雇用に係る立案
大学間・産官学間の研究活動強化	○	大学間・産官学間提携事業数	・専任教員の研究時間確保のための教員数増加に係る要望書の立案 ・研究シーズ集の公開 ・学科事務要員の雇用に係る立案 ・海外との共同研究や国際シンポジウムの実施に対する支援策を立案			

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
チャレンジ3	AI世界を先導するMUSIC	情報教育・学習環境の整備	教室環境のスマート化（プロジェクタ・ディスプレイの計画的な最新化）	○	教育（環境）の情報化装備率	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野キャンパス主要教室でのデジタル化 ・有明キャンパス武蔵野キャンパスの主要教室でのハイフレックス標準化 ・武蔵野キャンパス主要教室のAV機器更新 ・マルチメディア教室・PC教室の更新
			教室定員に対する無線LANセッション数及び電源の確保	○		<ul style="list-style-type: none"> (1) 武蔵野キャンパス4号館のネットワーク更新実施予定 (2) 武蔵野キャンパス図書館のネットワーク更新実施予定 (3) 有明キャンパス5号館・6号館の教室電源整備 ※令和4年度で中期計画実施終了
			LMSの確立とAIサービスの導入	○	<ul style="list-style-type: none"> ・教室のデジタル化率 ・共有空間のBYOD完備率 ・ストレスフリーな無線環境達成率 ・教育現場での響学スパイラル等の新しい学修スタイルの試みを支援するスマートサービスセンターの設置 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新しいLMSを段階的に普及・促進する。 (2) オンラインコミュニティサービスやオンラインコラボレーションサービスを導入・展開する。 (3) オンラインチューターを先行導入する。 (4) 学生へのワンストップ支援サービスを構築する。 (5) 学科等の響学スパイラル教育及びスマート化に関する専門的な知識やスキルの支援を通じて、現場の新しい試みを支援する。その一環で、SIキャンパス全体を一元的に支援するスマートサービスセンター（通学課程・通信課程問わず教育支援を行うセンター）の設置を検討する。 (6) 「教学システムのサーバ更新」「教学システムのリプレイスに向けた検討」を行う。
			学生 commons 等共有スペースの整備	○		<ul style="list-style-type: none"> ▼【MUSIC計画推進小委員会にて検討】 (1) 響学スパイラル等、新時代を先取りする学修イノベーションのためのSIキャンパス・クラス環境のプロトタイプ教室を有明、武蔵野キャンパスに各1教室構築。 (2) SIキャンパスビジョンに基づく、響学スパイラル教育・学習に適用できるよう、既存キャンパス・教室・学生 commons 等のリノベーション推進を検討。プロトタイプ構築・実践検証の推進 (3) SIキャンパスビジョンに基づく学生 commons・学習・共創・社交スペース、AIファブの段階的整備。学生がのびやかに、自主的に活動できる場とサービスの検討。 (4) SIキャンパスの活用支援組織・体制の構築・学生の自主的な活動を支援するコミュニティサービス強化の検討。 ▼【チャレンジ3とチャレンジ5の連携】 上記の場に各種共用メディア機器（3Dプリンタ、メディア編集スタジオ等）やサービスを導入する。

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
チャレンジ3	AI世界を先導するMUSIC	教育の情報・スマート化	BYODを活かした響学スパイラル教育の全学推進	○	BYODを活かした響学スパイラル教育実践率	教育現場における次世代教育・学習サービスの導入による「響学スパイラル×BYOD」の学修イノベーション推進のため、 (1) MUSIC計画推進小委員会にて、BYOD環境を活用した学科別の教育実践の普及を推進。学修イノベーション実践を実施する学科の割合90%を目指す。 各学科から、響学スパイラルとBYODの取り組み状況について報告を受ける。 (2) 響学スパイラルの、現場実践展開支援と、社会的発信の戦略的取り組み。導入した学科の割合と学内外のベストプラクティスを活用した学科の割合について共に90%を目指す。
			LMS、AIサービス、動画コンテンツ等を活かした教育の実践	○	LMS活用率の向上による教育のスマート化の促進	教育現場における次世代教育・学習サービスの導入による「響学スパイラル×BYOD」の学修イノベーション推進のため、 (1) 響学スパイラル教育を実現する基本サービスとしてLMS活用を標準化する。それにより、教材や学生提出物の管理など教員・学生間の相互作用のレベルを上げる。 (2) 優れた教育実践やノウハウについて共有と相互連携が行える教員コミュニティサービスを構築する。教員のコミュニティ参加率90%を目指す。コミュニティでは、ベストプラクティスを共有する。 (3) 教育DXについて検討を進める。
			MUSIC発次世代型情報・AI教育の全学展開とサブメジャー化	○	(A) 1学年あたりのコース修了率(令和5年度以降) (B) 情報基盤科目の履修率	「情報教育に強い」「情報教育のトップランナー大学」のブランド価値を最大化するため、 (1) 全学共通の情報科目の履修率の向上を目指す。1学年あたりのコース修了率25%、情報基盤科目の履修率(「プログラミング基礎」「情報技法基礎」のいずれかを履修した学生の割合)45%を目指す。 (2) 情報副専攻の本格開講のための情報科目担当教員を増員、業務委託、TASAの活用等を検討する。
		AI-Ready-Universityを目指した情報・AI教育のブランド化	文系学部生の成長産業分野(情報分野等)への就職率	(1) ビジネスのリアルコンテクストを前提にした実践教育を推進する。 (2) 情報副専攻履修者を対象としたコミュニティの場を提供し、専門知識だけでなく、社会に必要なコンピテンシーを育成するとともに、学習ポートフォリオの計画的準備を支援する。		
			専門科目での専門領域とAI・情報分野の融合科目	「情報教育に強い」「情報教育のトップランナー大学」のブランド価値を最大化するため、 (1) 情報教育のコンテンツ等の戦略的活用を検討する。 (2) 数理・データ・AI(特に統計学)の全学展開を検討する。 (3) 学科・学部別ニーズに基づいて、プログラミング系情報科目を学科科目として開講する検討を各学科と連携して行う。		

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画	
チャレンジ4	Global & Universal	世界に羽ばたき、世界を迎え入れる学部学科でのグローバル人材育成	協定・認定留学等の留学制度等の推進（海外渡航型）		①海外経験比率 ②海外学科FSを有している学科数 ③海外FS（語学研修等含む）参加学生数 ④グローバルPBL	令和4年度も引き続き、コロナの影響が見込まれるため、実施可能なプログラムや制度の整備、新規プログラムの開発（海外FS、PBL型プログラム等を含む）、留学促進に向けた活動（情報提供や支援）を実施し、令和5年度以降の目標達成を目指す。	
			オンライン型海外研修プログラムの充実化とその支援		・プログラム数 ・参加学生数	現在は海外留学の代替としてオンライン語学研修等を行っているが、コロナ収束後も継続して一つの国際化教育の形式として定着していくことを想定し、それを積極的に支援する。また、新規プログラム開発に取り組み、参加学生数獲得に努める。	
			留学生支援に取り組み、その広報を通じて優秀で多様な留学生獲得	○	・留学生比率 ・留学生出身国	留学生に必要な支援の調査及び環境の整備を行う。また、国際会議（APIE等）を通じて多様な留学生の獲得をめざす。 なお、コロナ禍による日本語学校学生数の減少等に鑑み、これまでと同様の優秀な留学生を確保することに留意しつつ獲得を行う。	
		国内授業における外国語科目の強化	第二外国語科目の充実		多様な第二外国語を2年次まで学ぶ学生数	新教養教育の枠組のなかで、外国語科目の充実を検討	
			SDGs専門科目等外国語で修了できる科目・コースの設置		外国語で行われている講座数	外国語を使用して開講する科目やInternational Lecturesに準ずる科目の充実や多様化を検討。	
		ユニバーサルなキャンパス空間と学生支援	キャンパスをバリアフリーな空間として創造		・キャンパス再整備 ・第二期中期計画の計画立案	調査、計画立案 （身体障がい、ジェンダー、信仰、国籍等多様な立場の学生に寄り添うことのできるキャンパス環境を目指す）	
			教職員のユニバーサル化		外国人教員比率	①外国人教員採用体制の構築準備 ②外国人教職員各種サポート体制の構築	
					女性教員比率	女性が就業を継続し、活躍できる環境の整備を行う。 ※職員を含めた環境整備 ①復帰に関する諸施策の検討と立案、策定 ②各種サポートの検討と立案、策定	
					若手教員比率	①若手教員採用体制の構築準備 ②インセンティブに関する諸施策の検討	
				障害者学修支援と多様な学生サポート		卒業時アンケート満足度	①学生支援のワンストップ窓口： ・オンラインサポートの充実（常設）、今後の仕組みづくり ・学生支援のニーズの調査 ・今後のワンストップ窓口のあり方の検討（学修・生活・進路・留学・健康管理など） ②ボランティアセンター、包括的な学生支援（学生ピアサポート）のプラットフォームの計画（学修支援センター等との調整） ・ボランティア活動団体のプラットフォーム整備+イベント企画（ワンデイボランティアなど）

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
チャレンジ5	MU-GENにつながるInfinite Linking	大学の枠を超えてつながる新設プラットフォーム（オンライン+リアル）を活用した各種連携（中高大接続、地域連携、通信教育、大学間・産官学連携、卒業生との連携）	学生（中高大）、卒業生、大学、企業、地域が参画する大学の枠を超えたプラットフォーム（オンライン+リアル）の新設		MUプラットフォーム（MUPF）の開発 卒業時アンケート推奨度	<ul style="list-style-type: none"> 武蔵野キャンパスに試験的な情報発信のできるスペースを構築する。 サイバー上の目玉コンテンツとして、大学（教員・学生）の成果物等を卒業生などへ配信する準備を行う。 SICの試験的な運用に伴う情報共有をはかり、他のサイバー上の施策について検討する。 卒業生にID（メールアドレス等）の付与の可能性について検討する。
			本学の教育コンテンツを活用した中高大接続		国内外の中高生との連携	各種取組の成果検証と今年度企画の立案、実施
			本学進学者及びIR情報を用いた高大接続		本学進学者輩出高校への相互フィードバック	高校へアポイントメントを取って訪問する、またはzoom等でオンラインによる面会を行う。 次年度レポート作成対象校を選定し、レポートを作成する。
			MUSICによる教育プログラムを通じた高大接続	○	THE大学ランキング日本版教育充実度（高校教員の評判向上）	高校教員を対象とした「情報教育体験」を試行する。
			地域ニーズを把握し、生涯学習講座等を活用した地域連携		生涯学習講座の参加者数、満足度	生涯学習講座の方針・目標値の決定
					研究所等講座の参加者数、満足度、見える化	満足度を測る仕組みを徹底する 大学HPで各研究所・センターごとに公開
			通信教育部での学修機会の拡大による卒業生を含めた学生確保	○	スクーリングのオンライン（ハイフレックス＝対面+オンライン）化	授業オンライン化による評価を踏まえた学修方法の検討（オンライン、オンデマンド、ハイフレックスの整理） 学修方法の拡大準備
			【認証評価指摘事項】通信教育部の学修者本位のCPへの見直し（学部、大学院）	○	改善策の実施	新CP検証
			卒業生ニーズを把握し、通信教育部、生涯学習講座等を活用した卒業生支援		卒業生通信教育部入学者数	卒業生を活用した活動の運用開始 卒業生ニーズに沿った支援の検討
					卒業生生涯学習講座の参加者数、満足度	卒後教育の方針・目標値の決定 学部学科、むらさき会等との連携（卒業生リスト化、個別告知）

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画	
チャレンジ5	MU-GENにつながるInfinite Linking	武蔵野サングの醸成（卒業生・退職者・在学生・教職員・後援会の連携）	100周年記念事業を契機とした同窓会組織の活性化と、卒業後の継続的な情報接触を通じた関係性の強化	○	職域&企業内等同窓会数	5名程度の小規模支部など、規模の大小に拘らず支部・拠点を立上げる ・職域支部創設準備：学科教員&卒業生との交渉 ・企業人事課コンタクト開始（案内パンフ、DM等） ・新規創設ガイダンス	
					卒業生把握率（現住所などを把握して連絡が取れる卒業生/女子大時代を含む全卒業生）	・同窓会サイト掲出コンテンツ量（ニュース年間：100本・武蔵野マガジン年間：24本） ・SNSコミュニティ立上げ（FB、LINE開設） ・個人最新情報登録の促進	
					OBOG訪問可能者数	・求人navi進路決定届の改修による協力者拡大 ・在学生の訪問利用促進（卒業時協力者増につなげる）	
共に5つのチャレンジを実現する学生の安定的な確保		武蔵野大学のビジョンの社会的認知と共鳴する優秀な人材の確保	入学定員を満たす入学者の確保（学部）		入学者数、定員充足率	学科別入試別入学者確保計画に基づき、志願者状況によって適宜修正を加え、目標達成を図る。	
			【認証評価指摘事項】大学院研究科の定員管理徹底（入学者の確保又は定員の削減）	○	収容定員に対する在籍学生比率	学科と連携し、学内推薦者数増に向けた広報の強化を行う。外部向けには研究力を訴求するパンフレットを作成・配信することで志願者増を図る。	
			入学者に占める本学第一志望比率増		新入生アンケート（回収率要向上）	学力が高い学生が本命にするように、各種広報を通じて、資料請求（大学パンフレット等）や大学HPによる本学への興味関心を高め、オープンキャンパスや相談会、大学見学等のより興味関心を高めるフェーズへ移行させる。	
			実志願者数の確保 18歳人口減対応（2020年117万人、2024年106万人 1割減）		実績値	従来のターゲット層への広報活動だけではなく、新たなターゲット層の開拓を行う。 ・高校教員との関係強化 ・日本語学校との関係強化 ・地方学生との獲得 ・総合型、公募制の志願者増	
			入試施策（出口から入試の合格基準を考える）		学科毎基準作成（一般就職系学科）	・より論理性を問う志望理由書の設問 ・一般選抜の入試科目における思考力をより問う設問（記述式等） ・一般選抜A日程（理系）の対象学科を拡充	
			Society 5.0時代のニーズに即応した学部学科等の新設再編		学部学科等の再編	文部科学省へ設置、寄附行為変更、学則変更の届出完了。	
			社会的評価指標の向上		THE大学ランキング等の社会的指標向上策のモニタリング	THE大学ランキング日本版順位	ランキング結果を分析し、関連するチャレンジ1から5の様々な事業計画を推進（あるいは見直し）することで、教育リソース・教育充実度・教育成果・国際性各分野の上昇（＝総合ランキングの向上）を目指す。
			社会に輩出する学生数の減耗の極小化		社会環境の変化に対応できる学生支援体制の強化	組織改組	・奨学金制度の規程整備 ・学生間ピアサポート体制の検討 ・学生のワンストップ窓口設置の検討

[武蔵野大学中学校・高等学校]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
1	<p>附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実をはかり、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく</p>	<p>真なるグローバル人材育成のためのシステムの構築</p>	<p>コースの再編と具体的なカリキュラムの構築</p>		<p>新コースの認知活動(生徒募集活動にて)</p>	<p>ホームページを活用した広報活動</p>
			<p>海外トップ大学への進学ノウハウの蓄積</p>		<p>勉強会の開催</p>	<p>進路指導室の整備 進路指導部員の拡充</p>
			<p>国公立・最難関私立への指導強化</p>		<p>研修会及び見学会の開催</p>	<p>進路指導研究の実施(難関大学見学会、模試結果や成績データの分析)</p>
			<p>英語四技能への対応と各種試験の研究</p>	○	<p>TOEFL60点以上30人または英検準1級以上30人(生徒の成果を検証)</p>	<p>TOEFL試験を受験することで本校教員が受験ノウハウの蓄積</p>
			<p>各授業の品質と大学進学指導力の向上</p>		<p>研修会及び見学会の開催</p>	<p>教務部の体制整備。研修会の実施(教員間の意見交換、教務データの統合と分析方法の確立)</p>
			<p>短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進</p>		<p>制度の見直し(希望者へ100%準備)</p>	<p>保護者、生徒対象の留学説明会の実施</p>
			<p>校内行事の整理・削減と一貫性の構築</p>		<p>時代の流れを受けた教育効果の実践</p>	<p>恒例行事の教育効果の検証と再検討</p>
		<p>サイエンスを身につけるためのシステムの構築</p>	<p>理数系教科の指導力の向上</p>	○	<p>外部コンテスト参加20件</p>	<p>外部コンテスト参加</p>
			<p>外部企業との連携</p>		<p>最先端コンテンツの導入</p>	<p>導入コンテンツの検証及び最先端コンテンツの検討</p>
			<p>外部学力テスト結果の分析及び授業での検証</p>		<p>勉強会の開催(職員会議での共有)</p>	<p>勉強会の開催(職員会議で共有)</p>
			<p>学級運営力・授業力向上に向けての各種研修会への参加</p>		<p>参加の奨励</p>	<p>①授業評価アンケート実施 ②教科研修会の実施。 ③外部研修会の参加推奨</p>
			<p>21世紀型学力のためのハード・ソフトの構築</p>		<p>研究(外部メディアからの取材)</p>	<p>整備済みハード・ソフト等の効果検証</p>
			<p>最難関大学への指導ができる体制づくり</p>		<p>チームの構築</p>	<p>改修後の進路指導室の活用、並びに進路指導部と各コース長による新たな指導体制の構築</p>
			<p>ICT教育を含む継続的な学習環境の整備</p>		<p>整備計画の立案</p>	<p>ICT関連備品整備(故障時対応用ipad購入)</p>

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
2	目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人財開発を進め、実アウトを積み重ね、実践布をう	教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立	人員配置の整理と機動力の向上	○	働き方改革と千代田との協力体制の確立(人事交流)(教員の満足度調査)	教員満足度調査の実施
			クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成		若手教員によるプロジェクト	若年教員層でプロジェクトを運営し、人材育成をかねる
			学外広報の強化による志願者増		広報活動の強化	HP情報の整理と充実 集客分析
			改革を推進し入学者の増加を達成し収入の増加と収支の均衡を図る		教員の財務意識の向上	入学定員の充足
3	学祖高楠順次郎先生が目指された「社会に貢献する人材育成」という原点に立ち返る	「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステム的设计を行う	社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発		開発作業	学祖高楠順次郎の研究をまとめる

[千代田国際中学校・武蔵野大学附属千代田高等学院]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
1	前身である千代田学園設立者の黙生が指した「国際教養人の育成」に返り、国内外の難関大への進学を保证していく	国内難関大学・海外大学への合格力を高める	コースの再編と具体的なカリキュラムの構築	○	新コースの定員確保 TOEFL60点以上20人または英検準1級以上20人 (生徒募集活動にて)	中1 : 100 高1 : 200 高2 : 188 高3 : 280
			海外トップ大学への進学のノウハウの蓄積		勉強会の開催	進路指導室の整備。 進路指導部員の拡充。
			国公立・最難関私立への指導強化		研修会及び見学会の開催	進路指導研究の実施 (難関大学見学会、模試結果や成績データの分析)
			各授業の品質と大学進学指導力の向上		研修会及び見学会の開催	教務部の体制整備。 研修会の実施(教員間の意見交換、教務データの統合と分析方法の確立)
			チームで進路指導を行う体制づくり		体制づくり(進学実績の向上)	進路アドバイザー人員の配置(フルタイム)
			入試制度の研究と個別最適化の模索		研究と実践(学力推移の検証)	進路指導部の体制整備
		想像力と教養力の育成	世界を見据えた教材の選定とテストの抜本的な見直し	○	全統模試偏差値(3教科)	教科セミナー開催 目標設定と模試計画の研究
			短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進		制度の見直し(希望者へ100%準備)	制度の見直しに応じた規程制定及び改正
			教員の教養力の強化		研究と実践	自己啓発の推奨
			外部企業等との連携		最先端コンテンツの導入	導入コンテンツの検証及び最先端コンテンツの検討

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
2	目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人財の開発・育成を進め、実なアウトカムを出し、実践の頒布を行う	教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立	クラスター型組織による複数の次世代リーダーの育成		若手教員によるプロジェクト	若年教員層でプロジェクトを運営し、人材育成をかねる
			学外広報の強化による志願者増		広報活動の強化	HP情報の整理と充実 集客分析
			改革を推進し入学者の増加を達成し収入の増加と収支の均衡を図る		教員の財務意識の向上	入学定員の充足
3	学祖高楠順次郎先生が指された「社会に貢献する人材育成」と原点に立ち返る	「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要なシステムの設計を行う	社会に貢献する人材になるためのオリジナル教育の開発		開発作業	学園創立者の島地黙雷先生の研究を紀要にまとめる
4	法人全体の組織マネジメントの構築	法人統合後の実効的な組織運営とガバナンス体制の強化	人員配置の整理と共通基盤に基づく柔軟な組織の構築	○	設置2校の協力体制の確立 給与・労働条件の統合 (教員の満足度調査、規程の整備)	労働条件の統合(職員) (就業規則・給与規程の統合)
			事務室業務の整理(法人業務と設置校業務)と法人への移管		設置校業務の適正化(規程の整備)	退職金業務の移管(財団手続き含む) 給与業務(前歴計算、減算回復)の移管

[武蔵野大学附属幼稚園・慈光保育園]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
1	園児が健やかに成長できる教育環境を整備する	目標を具現化した競争力のある教育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる教育の質の向上を目指す		保護者保育参加の参観日 教員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育方針の実践 ・教員研修の実施 ・正課体操指導の導入 ・バス利用者の安定的な確保及びルート拡大 ・古くなったおもちゃの更新
			園児が健やかに成長できる教育環境の整備	○	魅力ある遊具の更新設置	園庭及び遊具更新計画の策定と実施(砂場・池周り等の改修)
			地域子育て支援への貢献	○	育児相談の実施 子育て応援講座開催	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談の対象者を園児の保護者に限らず、未就園児や一般地域住民にまで拡大し子育て世代の支援を行う。 ・子育て応援講座の集客増加を園児募集に繋げる。
2	企業内保育所の円滑な運営	きめ細かい保育を企画・実施して、園児を成長させる	園児と保護者の満足度が高まる保育の質の向上を目指す		育児について保護者との勉強会を開く	懇談会・面談の充実 職員研修の実施によるスキルアップ
			園児が健やかに成長できる保育環境の整備	○	幼児専用砂場設置	保育園門周辺の外構工事(フェンス等)・発達に合わせて手作りおもちゃの充実、衛生機器の更新。
			地域子育て支援への貢献		幼稚園とタイアップした育児相談の実施・子育て応援講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談の対象者を園児の保護者に限らず、未就園児や一般地域住民にまで拡大し子育て世代の支援を行う。 ・子育て応援講座の集客増加を園児募集に繋げる。
		2030年までに幼稚園型認定こども園を目指す		幼稚園型認定こども園を目指した各諸施策を検討する	—	<ul style="list-style-type: none"> ・国の方針(補助金)及び西東京市の園長会等の動きを注視 ・こども園に移行する場合の諸要件の調査(継続)
3	幼稚園の円滑な運営	2030年までに幼稚園型認定こども園を目指す	幼稚園型認定こども園を目指した各諸施策を検討する		—	<ul style="list-style-type: none"> ・国の方針(補助金)及び西東京市の園長会等の動きを注視 ・こども園に移行する場合の諸要件の調査(継続)
4	入園者の確保	保護者も満足できる教育の実施	入園応募者の増加	○	入園定員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール(3回実施) ・ドキュメンテーションの導入 ・課外活動の内容の充実(講師謝礼の増額) ・園パンフレットの継続的見直し・増刷 ・HPの充実による広報活動拡大

[武蔵野大学附属有明こども園]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
1	大学のなととし自立のキム築をすよるで安定した運営	園児と保護者の満足度が高まる教育・保育の質の向上を目指す、円滑で安定した運営を行う	園内外の研修や教育学部幼児教育学科との共同研究等を通して、教職員の指導力の向上を目指す	○	キャリアアップ研修修了者率(保育教諭数31名)	園内外の研修を教職員同士で共有すること、また社会状況にもよるが可能であれば学部との共同研究を通して、教職員の指導力の向上を目指す。 ・キャリアアップ研修受講を支援する。
		園児が自発的に遊び込み、生きる力を身につけられるよう、わくわくプログラムを実施するなど、教育・保育環境を充実する	発達障害児等の障害者受入体制の整備 ・江東区からの斡旋児1名に付き担任とは別に非常勤1名配置 ・斡旋以外の園児をどの程度受け入れるか検討と体制づくり	○	障害のある園児	・江東区から新たな障害のある児童を斡旋された場合は当該児童の最善の利益を考え環境が整えば積極的に受け入れる。 ・療育通所園児についてはこども発達センターと連携して園児と保護者を支援していく。また非常勤職員を多く募集し加配として申請する。
		地域に開かれた施設として、地域子育て支援プログラムを通し、子どもの健全育成及び子育て世代の家庭の支援を図る	様々な学部と連携し、園児が多方面に亘る事象に興味を持ち、視野を広げていける環境の整備	○	わくわくプログラムの年間実施回数	・大学のゼミや授業の一環としての提案も園児が視野を広げていけるようなプログラムであれば先方と相談しながら探り、取り入れていく。 ・看護学部のプログラムは「自分の身体を知ろう」というテーマ。性についても触れる、幼児の心身の成長にとって大事なプログラムなので年2回への変更を依頼する。
2	子育てを中心に様々な情報を発信し地域に根付いた園にする	地域に開かれた施設として、地域子育て支援プログラムを通し、子どもの健全育成及び子育て世代の家庭の支援を図る	地域の子育ての拠点となれるよう子育てに関する講習会や絵本の読み聞かせ会等の充実	○	地域子育て支援プログラム年間実施回数	・2021年度はコロナ禍のためイベントの中止や一時保育室の休室もあり充分活動できなかったため、令和4年度は地域の子育てに貢献できるようプログラムを充実させる。 ・小学校との連携では区の研修を通して課題への共通の認識を持つ。

[法人]

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
1	仏教精神の再確認と共有	仏教精神の普及	「建学の精神」である仏教精神の学内外への普及に資する式典、行事、研修、講演会の充実	○	①日曜講演会の参加者数	市報、チラシ等を積極的に活用した広報活動を実施して、地域の方を中心に周知を図る。有明開催を検討する。
					②法人内の各学校の関係強化	各学校独自の活動を継続させながら、各学校間での意見交換等の相互交流を進めることで関係強化を図る。
					③大学礼拝の参加者数	前期は対面かつ動画配信にて実施し、後期は状況を鑑みて実施する。有明キャンパスでの学生数増加に合わせた運営方法を検討する。
					④仏教ボランティアの参加者数	各寺院の活動内容を再確認し、可能な範囲で学生の派遣を検討・実施する。
					⑤各種仏教行事の充実	感染予防対策の中で案内方法・運営を検討し、可能な限りの充実を図る。
					⑥職員研修の参加率	職員への継続的な建学の精神涵養研修の実施。対面及び動画配信等の検討・実施。
2	ガバナンスの構築と執行体制の強化	ガバナンス構築	学長・校長・園長を中心とした全学院の執行体制の強化		①関係規程の整備	令和2年度から進めているガバナンス体制強化に係る規程等の検証。必要に応じて規程制定や改正により体制強化を補完していく。
					②規程等に基づく運営	規程システムの導入と、システムによる全規程の再チェックを行い不備の解消を行う。
			ガバナンス・コードの実質化		ガバナンス・コードの策定及び自己点検の実施・公表	各項目について、遵守状況を根拠資料を基に確認、理事会へ報告

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
3	組織の活性化と職場環境改善の推進	人事・組織の活性化	スピード感ある業務執行と確実に効率的な業務を実現する組織の確立	○	①事務組織の改編	管理職への登用及び部署別の最適人数の把握による人員配置を実施。
					②事務組織の改正	改編後の事務組織を検証し、必要に応じて事務組織規程の改正を実施。
			働き方改革の推進による帰属意識の向上	○	①テレワーク規程の改正	内容を精査し、検証の上必要に応じて規程を改正。実現に向けた勤怠管理システムの導入。
					②残業の削減	中長期計画に基づく職員数の確保、及びテレワーク等ポストコロナのニューノーマルな働き方の実現により残業を削減。
			人事に関する計画（人材確保、人材育成、評価、適正配置、人件費見積り等）	○	①職員研修計画の策定・実施	人事システムを導入し、個別の研修修了状況を把握し、正しく研修が行われているかを検証する。
					②職員資格制度の導入と給与制度の見直し	人事システムを導入し、正しい資格制度の運用を図る。新制度移行後の検証を行い、必要に応じた見直しを検討。
					③評価制度の検証・見直し	管理職向け評価研修の実施により正しく公平な評価制度を実現する。
			全学院のコンプライアンス及びハラスメント対策推進と行動規範に基づく倫理の徹底	○	①ハラスメント規程の改正・研修実施	防止委員会の定例開催。職員向けハラスメント防止研修開催。全教職員を対象としたハラスメント防止コンテンツの作成。
②行動規範の改訂・周知	行動規範のWEBコンテンツ化。コンプライアンス順守のための随時見直し。					
4	ブランディング広報の強化	戦略的広報計画の策定・展開	全学的連携を視野に入れた広報の充実	○	①リクルート・進学ブランド力調査	入試広報と連携した効果的な施策の実施。
					②日経BPコンサルティング 大学ブランド・イメージ調査 大学認知率	取組1 ・ブランド広報の継続的展開 ・法人WEBページのリニューアル ・広報力強化施策の実行 取組2 ・ブランド広報新メッセージの広告展開、広報展開
					③プレスリリース	本数は2024年度目標を達成しているが、本数を維持しつつ、よりパブリシティに繋がる内容の精査、各学部・部署へのリリース作成啓蒙活動。

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
5	創立100周年記念事業の成功と、次の100年への長期的パースペクティブ	100周年記念事業の企画推進とブランディング	100周年記念事業の推進	○	【PJ1】スマートインテリジェントキャンパス開設	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルティング開始 ・サービストライアル実施期間 ・通信教育部等e-ラーニングシステム選定・移行・試験運用 ・各コンテンツ情報収集・見直し ・学生アンケート
					【PJ2】学生参加型イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスリサーチ活動、音楽制作ミニワークショップの活動記録 ・夏の活動：企画準備 ・夏の活動：キャンパスリサーチ活動、音楽制作ミニワークショップ ・学生委員会の発足 ・中高大生協働プロジェクト ・次の100年プロジェクト
					【PJ3】記念式典/講演会/記念祝賀会	<ul style="list-style-type: none"> ・西本願寺、築地本願寺連携案の確認 ◇100周年記念事業PJ②・③・⑧・⑨の各PJの進捗管理を進め、目的、目標、参加者・ゴールを可視化。事業の整合を図る。 ◇月次計画レベルに落とし推進精度を高め、イベント企画を通じた事業コンセプトを纏める。 ◇新入生受け学生参画のガイダンス開始
				○	【PJ4】100年史記念編纂	<ul style="list-style-type: none"> ・教員インタビュー・卒業生対面取材(座談会等の開催も視野に) ・退職教職員取材 ・事務組織変遷史整理 ・ニュースレター発行 ・原稿執筆 ・構成案を受けた編纂計画案の策定 ・執筆準備(資料整理・図版吟味) ・執筆(陣)体制確定 ・フォーマット確定
					【PJ5】高楠学祖関連書籍の発刊・映像制作	<ul style="list-style-type: none"> 「論集 高楠順次郎」(吉川弘文館)刊行 「高楠順次郎日記」(武蔵野大学出版会) 「評伝 高楠順次郎」刊行に向けた編纂体制の整備。 資料、素材、文献の整理
					【PJ6】学祖記念国際センター開設	<ul style="list-style-type: none"> ・高楠データアーカイブ開発 ・デジタルデータ作成
					【PJ7】記念碑の設置、募財者刻名	<ul style="list-style-type: none"> ・記念碑等調査
					【PJ8】(学術)論文・作文コンクール	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度に行う募集広告・広報の計画立案、見積取得、R5予算申請(広報費、審査員謝礼、優秀作品集印刷製本費) ・広告デザイン制作、広報物原稿作成準備
					【PJ9】文化・芸術・研究成果の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・理事者協議 ・計画承認 ・計画遂行に向け実施担当教員と実施 ・能楽講演実地調査

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
5	創立100周年記念事業の成功と、次の100年への長期的パースペクティブ	100周年記念事業の企画推進とブランディング	100周年記念事業の推進	○	【PJ10】100周年事業広報	<ul style="list-style-type: none"> ・100周年記念事業HP保守費 ・HPコンテンツ制作編集諸費 ・記念事業ファクトブック企画制作 ・100周年記念グッズ企画制作 ・SNS編集マネジメント諸費 ・卒業生取材・学外関係者取材諸費 ・100周年記念広報誌(パンフ)制作 ・代理店広報戦略プランニング契約 ・SNS広報(LINE等運営) ・代理店広報戦略プランニング契約 ・SNS,各種媒体出広費 ◇100周年事業の進展、企画精緻化に伴いコンテンツの充実を図る。インタビュー記事などの更新性を高める。募財のお願い等のHP準備を進める。(募財広報開始) ◇各PJおよび設置各校との連携
					募財目標額：20億円 ～2024年度：10億円	100周年募財活動の開始。趣意書の作成、記念品の活用、渉外活動から募財の取り込みを図る。
6	卒業生の組織化とロイヤリティ向上による大学価値の最大化	卒業生(同窓会)の組織化・機能化	校友会連合会(仮称)の創設	○	①校友会連合会(仮称)総会開催[2020]	◇第1回連合会開催(6月) ◇3同窓会によるDB運用 ◇SNSコミュニティスタート(8月)(LINE、Instagram) ◇20代マーケティング開始(スマホ対応)
					②企業内同窓会	A：卒業就業者の多い企業へのコンタクト(人事→社員紹介) B：主要企業就業者リストの作成(就業者ネットワーク構築) C：企業内同窓会創設 D：新設HPからのPR
					③職域同窓会	◇学内担当教員&卒業生の関係強化 ◇2支部立ち上げ ◇新規支部創設支援策の整備・充実
					④海外同窓会	◇国際課と連携し中国、台湾、東南アジア拠点の立ち上げを図る。
					⑤会員DBシステム稼働[2021]	同窓会名簿管理システムの安定稼働を図る(システム利用費/年間)。
					⑥連合会HP開設[2021]	◇業務効率化(運営体制) 一部外注化による学外取材等HPコンテンツ制作安定化を図る ◇支部との関係性強化 支部取材を通じ人的関係性構築に着手

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画	
7	財政基盤の強化	経営指標に基づく財政の安定化	経営指標に基づくバランスのとれた予算の構築と執行		財政分岐点指標の順守	経営指標に基づくバランスのとれた予算の構築と執行を実施するとともに、各校の経営指標の見直しを推進する。	
			各種収入源の継続的な模索と確保		補助金・外部資金の獲得	安全性を担保しつつ積極的な資金運用活動を推進する。	
			ステークホルダーに対する募財システムの構築と募財の推進	○	寄付金額	100周年募財と絡めて、積極的な募財活動を推進する。	
		【大学】経営指標に基づく財政の安定化	中長期事業計画を踏まえた経営指標（大学）の見直し		新経営指標	ガイドポストを軸とし、経営指標（大学）の見直しを推進する。	
			Best・Normal・Worst各収支シナリオに基づく弾力的な経営（収入減少時の支出抑制策）		中長期財政計画・事業活動収支	収入面では学生数動向等を把握の上、実態に基づき試算し、支出面は厳格な執行管理により、効果的な予算の配分となるよう取り組む。	
			借入金・リース等外部負債を抑えた設備投資		自己資本比率	資産と負債の状況を精査し、極力保有資産範囲内での設備投資計画を策定する。	
		【武蔵野中高】経営指標に基づく財政の安定化	単年度収支の継続的な黒字化の達成		財務指標に基づく予算・決算	経営指標（中高）の見直しを推進する。	
			千代田高等学院を含む、中高財政基盤の健全化		財務指標に基づく予算・決算	ガイドポストを順守した財政計画の実施。	
			東京都下の12歳・15歳人口（20%）減を想定した経営計画の見直し		中高経営計画の策定	入学者を継続的に確保することで、財政基盤を安定化させる。	
			任意団体（部活動・紫紅会、学年費、感謝献金）のネットバンキングサービスを活用した管理		資金管理の適正化	実施計画検討	
			高校校舎・中学校舎の建替えを想定した2号基本金の積立、募財計画。2023年度学費改定		第2号基本金への組入率	施設の取得を見据えた第2号基本金組入を実施。募財活動の再開による寄付金の増強。	
			【千代田中高】経営指標に基づく財政の安定化	教学（総コマ数）と法人（経営）の整合性のある人件費管理の実現		人件費比率 教職員定数（客観的必要数） （給与規程の改正）	許容総額人件費と構成比（専任・非常勤）の見直し。
				予算執行の適正化		執行率 教管比率	-
		学校管理資金（感謝献金・部費等）のバンキングサービス利用			決算報告	四半期毎のチェック体制の整備	
		持続性を担保するための堅実な学校会計の実行			特定資産への組入れ率 第2号基本金組入れ率	施設の取得計画、財政状況を見ながら、組入再開を検討。	

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
8	危機管理体制の確保	危機管理マニュアルに基づく危機管理体制の確保	感染症対策を含めた危機管理マニュアルの更新	○	危機管理マニュアルの更新	危機管理マニュアルの公開。いつでも参照できるようなコンテンツとして作成する。
			災害等発生時に迅速・柔軟に対応するための危機管理体制の見直し	○	事業継続計画（BCP）策定	危機管理マニュアルと連動したBCPの策定。
		災害対応力の強化と危機管理能力の向上	安心安全を見据えた災害対応力の強化と危機管理能力の向上	○	①自衛消防計画・組織の見直し	—
					②避難訓練等の実施	学生のキャンパス移転やコロナ感染症対策に適応した避難訓練の実施。
③避難所計画の策定	学生のキャンパス移転やコロナ感染症対策に適応した避難所計画の策定。					
④備蓄品の整備	—					
9	教育研究基盤を強化する施設マネジメント	【大学】増加する学生と進化する授業形態に向けた教育環境の整備・構築	新授業形態に合わせた規格を持つ適正な数の教室・学生共有空間の増設		10,000㎡規模の校舎新設	(令和3年度完工)
			MUSICヘルプデスクによるLMSの活用支援		各キャンパスに支援体制構築	・継続してエムユービジネスサポートに窓口業務を委託する。 ・ヘルプデスクWEBサイトの充実、チャットボットの機能拡張を実施する。
			MUSICの機能を拡充する適正なソフトウェア・機器類の確保		授業評価学生満足度	・Microsoft365、GoogleWorkspace等を教員・学生にアカウントを提供する。 ・Zoomアカウントを教員に提供する。 ・一部学生にVPN環境を提供する。 ・Adobe Creative Cloudを希望学生が学生価格で購入する体制を作る。 ・統計ソフトウェアSPSSを継続展開する。
		【大学】経年劣化の進む施設設備の整備	武蔵野キャンパス施設設備機器の更新		施設設備更新計画達成率	6号館の冷温水発生機更新 8号館のGHP更新・無菌室空調更新 大学図書館EV更新 大学図書館冷温水発生機・北館AHU更新 1、7、8号館、学友棟LED化 雪頂講堂の照明更新
			施設設備機器に関する法令順守（建築基準法、ビル管法、消防法等）		施設設備更新計画達成率	—
			武蔵野キャンパス4号館の改修		改修及び充実	—
		【武蔵野中高】増加する生徒・教員と進化する授業形態に対応する教育環境の整備	進路指導室・自習室・ICT環境等の充実、特別教室等の改修、第二体育館・駐輪場・職員室・講師室の整備等		完工、納品	・実施計画策定 ・第二体育館の改修整備については、学院キャンパス施設等検討委員会にて建替え検討中
		【武蔵野中高】セキュリティ対策	フェンス、セキュリティゲートの設置等		完工	実施計画策定。
【武蔵野中高】経年劣化の進む施設設備の整備	高校校舎の大規模修繕、中高図書館の建替更新、音響設備更新、応接室及び音楽室の環境整備等		完工	・中高受変電設備・高圧ケーブル更新 ・高校校舎エレベーター更新 ・教室ファンコイル更新 ・中高図書館建替えについては、学院キャンパス施設等検討委員会にて検討中		

区分	第一次長期計画	第一期中期計画	2020年度～2024年度事業計画	重点計画	指標	令和4(2022)年度事業計画
9	教育研究基盤を強化する施設マネジメント	【千代田中高】 老朽化建物の具体的な計画立案と実行	大講堂及び本館の建替、聞思堂の補修等		完工	学院キャンパス施設等検討委員会にて検討中。
		【千代田中高】 教育環境の整備	売店・ラウンジの設置、ARC用ICT機器の充実、男子更衣室・部室の増設、机・椅子の整備、中学校教室の改修工事（フューチャールーム）等		完工、納品	・ARC ICT機器の更新 ・新館と同規格の机・椅子の段階的整備（100セット） ・中学校4教室改修工事実施
		【千代田中高】 インフラ整備など	学内無線LAN環境の改善、電源ケーブル・LAN配線の整理、技術室・生徒用ラウンジの設置、応接室の増設、校長室の改修等		完工	・ネットワーク機器とアクセスポイントの更新・増強、構内配線の増設、ネットワーク回線の増設 ・LAN配線・配管工事実施 ・学院キャンパス施設等検討委員会における、本館建替え計画次第
		【千代田中高】 持続可能な教育を実現させる適正な維持管理の実施	施設ごとの改修・更新基準の策定		施設整備計画の策定 点検・診断計画の策定 修繕の優先順位づけ（他部署との連携、計画的なメンテナンスへの復帰）	施設設備計画（詳細）に従い実施
		【幼稚園・保育園】 経年劣化が進む設備機器の更新整備	放送機器を更新、情報伝達の不安を解消	○	ホール・職員室放送機器の更新	保育室床改修 園庭遊具改修 教職員トイレ便器改修（和式⇒洋式、ウォシュレット）
		【幼稚園・保育園】 経年劣化が進む建物内部の改装	経年劣化している園舎・狭隘な職員室、応接室の増設、倉庫等の教育環境の整備	○	園舎内老朽化に伴う内部改装	旧園舎保育室、図書室（7室）床改修
		【こども園】 開設後必要となった設備の整備	プール用簡易温水シャワー設置及び園庭の改修・再整備		開園当初のコンディションを維持する	共用部分の活用として、畑化等の具体的な整備を進める。 また、経年劣化や使用により破損や汚損したものにすぐに補修や改修を行い、きれいで明るい保育/教育環境を維持する。